

定期作況報告

(第3号 平成29年7月20日現在)

地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部 上川農業試験場

1. 気象概況

6月下旬：平年に比べて、平均気温は1.2℃低く、降水量は19.4mm多く、日照時間は32.9時間少なかった。夏日（最高気温25℃以上）は2日であった。

7月上旬：平年に比べて、平均気温は1.5℃高く、降水量は17.7mm少なく、日照時間は0.1時間多かった。夏日は7日（うち、真夏日：最高気温30℃以上は3日）であった。

7月中旬：平年に比べて、平均気温は2.9℃高く、降水量は12.9mm少なく、日照時間は5.6時間少なかった。夏日は8日（うち、真夏日は3日）であった。

6月下旬から7月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象表

調査項目	6月下旬			7月上旬			7月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温(℃)	17.0	18.2	▲ 1.2	21.9	20.4	1.5	22.7	19.8	2.9	20.5	19.5	1.0
最高気温(℃)	21.2	24.5	▲ 3.3	27.5	26.0	1.5	27.5	25.5	2.0	25.4	25.3	0.1
最低気温(℃)	12.8	12.8	0.0	17.0	15.7	1.3	18.0	15.4	2.6	15.9	14.6	1.3
降水量(mm)	42.5	23.1	19.4	17.5	35.2	▲ 17.7	28.5	41.4	▲ 12.9	88.5	99.7	▲ 11.2
降水日数(日)	5.0	2.9	2.1	4.0	3.1	0.9	5.0	3.6	1.4	14.0	10.0	4.0
日照時間(hr)	33.3	66.2	▲ 32.9	58.4	58.3	0.1	55.6	61.2	▲ 5.6	147.3	185.7	▲ 38.4

注 1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10カ年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

2. 作 況

1) 水 稲 平年並

5月20日現在：平年並

事由：播種は平年並の4月14日に行った。育苗期間中の天候は4月中旬、気温は平年より高かったが日照時間は平年より少なく経過し、出芽はやや遅れ揃いも劣った。4月下旬は日照時間が平年並であったが、気温は平年より低く経過し、苗の生育は遅延した。5月上旬の平均気温は平年並で日照時間が多く、中旬は高温・多照に経過し苗の生育は回復傾向となった。移植は平年より1日早い5月18日に行った。移植時の草丈は平年より2.0～2.3cm低く、第1葉鞘高はほぼ平年並であった。主稈葉数は平年並で、茎数も平年並であった。地上部乾物重は平年より0.06～0.28g軽かったが、苗の充実度を現す地上部乾物重/草丈はほぼ平年並であった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

6月20日現在：やや不良

事由：5月下旬の高温により活着は良好で生育も順調であったが、6月上旬の低温・日照不足と6月中旬の低温により生育は停滞し葉先枯れもみられた。6月20日現在、主稈葉数は平年並であるが、草丈は平年より3.8～4.5cm低く、 m^2 あたり茎数は平年より24～32%少ない。

これらのことから、目下の作況は「やや不良」である。

7月20日現在：平年並

事由：6月下旬は低温・日照不足となり生育は遅れ、幼穂形成期は平年より2～3日遅れたが、7月上～中旬の高温により生育は回復し、止葉期は平年より1～2日早かった。7月20日現在の草丈は平年並からやや高く、葉数と m^2 あたり茎数は平年並からやや多いが、分けつの生育が遅れているため、出穂期は平年よりやや遅れている。

これらのことから目下の作況は「平年並」である。

表2 7月20日の水稻の生育

項目	品種名 /年次	ななつぼし			ゆめぴりか			
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	
生育期節	播種期 (月日)	4.14	4.14	0	4.14	4.14	0	
	移植期 (月日)	5.18	5.19	△ 1	5.18	5.19	△ 1	
	幼穂形成期 (月日)	6.25	6.23	2	6.27	6.24	3	
	止葉期 (月日)	7.08	7.10	△ 2	7.09	7.10	△ 1	
	出穂期 (月日)		7.21			7.20		
	成熟期 (月日)		9.10			9.08		
	穂揃日数 (日)		8			8		
	登熟日数 (日)		50			50		
	生育日数 (日)		148			147		
移植時	草丈 (cm)	11.2	13.2	▲ 2.0	10.9	13.2	▲ 2.3	
	葉数 (枚)	4.0	4.0	0.0	4.1	4.1	0.0	
	茎数 (本)	1.8	1.7	0.1	1.8	2.0	▲ 0.2	
	第1葉鞘高 (cm)	2.3	2.5	▲ 0.2	2.3	2.5	▲ 0.2	
	地上部乾物重 (g/100本)	4.17	4.23	▲ 0.06	4.04	4.32	▲ 0.28	
	地上部乾物重/草丈	0.37	0.32	0.05	0.37	0.33	0.04	
本田生育	葉数 (枚)	6月20日	8.1	8.1	0.0	8.4	8.4	0.0
		7月20日	10.3	10.2	0.1	10.9	10.5	0.4
		止葉葉数		10.2			10.5	
	茎数 (本/m ²)	6月20日	445	583	▲ 138	450	662	▲ 212
		7月20日	773	749	24	856	856	0
	草丈 (cm)	6月20日	34.8	38.6	▲ 3.8	32.9	37.4	▲ 4.5
7月20日		82.6	79.9	2.7	83.6	79.3	4.3	
成熟期	稈長 (cm)		68.1			65.5		
	穂長 (cm)		16.5			16.7		
	穂数 (本/m ²)		688			790		
収量構成要素	一穂粒数 (粒)		50.5			43.4		
	m ² 当たり粒数 (×千)		34.8			34.2		
	稔実歩合 (%)		95.4			93.8		
	m ² 当たり稔実粒数 (×千)		33.1			32.0		
	同上比 (%)		100			100		
	登熟歩合 (%)		87.5			84.5		
	粒摺歩合 (%)		81.0			79.0		
	屑米歩合 (%)		2.4			3.4		
精玄米千粒重 (g)		22.4			22.9			
収量	藁重 (kg/10a)		635			607		
	精粒重 (kg/10a)		839			824		
	精玄米重 (kg/10a)		679			651		
	収量平年比 (%)		100			100		
	検査等級 (等)			-			-	

注 1) 平年値は前7カ年の中、平成23年(最凶年)、平成26年(最豊年)を除く5カ年の平均値。

2) △は平年に比べ「早」、▲は平年に比べ「減」を示す。

3) 苗代耕種概要 育苗様式：成苗ポット苗

施肥量：成分量でm²あたり、床土 N 3.0g, P₂O₅ 7.2g, K₂O 3.0g

置床 N 27.0g, P₂O₅ 34.0g, K₂O 18.0g

4) 本田耕種概要 栽植密度：25.3株/m² (33.0cm×12.0cm)、3本植

施肥量：成分量で10aあたり、N 8.0kg, P₂O₅ 9.7kg, K₂O 6.9kg, 堆肥1,000kg

5) 精玄米千粒重・精玄米重：網目1.90mm以上、水分15%換算

2) 秋まき小麦 不良

9月20日現在：

事由：平年並の9月15日に播種を行った。

10月20日現在：やや不良

事由：播種期と出芽期は平年並であった。葉数と草丈は平年並であるが、10月上中旬が低温に経過したことから茎数は平年を下回っている。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

5月20日現在：不良

事由：根雪始は平年より24日早く、根雪終は平年より3日早く、積雪期間は平年より21日長い160日となった。根雪始がかなり早かったため、例年行う雪腐病防除を実施することができなかった。積雪期間が長く、雪腐病発病度がかなり高かったため、草丈は平年より低く、茎数は平年よりかなり少ない。

したがって、目下の作況は「不良」である。

6月20日現在：不良

事由：6月上旬の気温が低温で推移したため、出穂期は平年より2日遅くなった。現時点の草丈は平年よりやや低く、茎数は平年をかなり下回っている。

したがって、目下の作況は「不良」である。

7月20日現在：不良

事由：出穂以降、6月はやや低温で推移したが、7月上中旬は高温で推移した。成熟期は平年より1日早かった。稈長はやや低く、穂長は平年並、穂数は平年よりかなり下回っている。

したがって、目下の作況は「不良」である。

表3 7月20日の秋まき小麦の生育

品 種 名		きたほなみ		
項 目 \ 年次		本 年	平 年	比 較
播種期 (月.日)		9.15	9.15	0
出芽期 (月.日)		9.24	9.24	0
出穂期 (月.日)		6.07	6.05	2
成熟期 (月.日)		7.18	7.19	△ 1
越冬茎歩合 (%)		31.4	129.1	▲ 97.7
雪腐病発病度		61.3	10.0	51.3
葉数(枚)	平28年10月20日	4.5	4.4	0.1
草丈 (cm)	平28年10月20日	19.4	18.8	0.6
	平29年 5月20日	33.7	38.3	▲ 4.6
	平29年 6月20日	81.5	86.2	▲ 4.7
茎数 (本/m ²)	平28年10月20日	795	872	▲ 77
	平29年 5月20日	357	1474	▲ 1117
	平29年 6月20日	300	712	▲ 412
成熟期	稈長 (cm)	71	77	▲ 6
	穂長 (cm)	8.8	8.6	0.2
	穂数(本/m ²)	269	658	▲ 389
子実重 (kg/10a)			681	
同上平年比 (%)			100	
リットル重 (g)			811	
千粒重 (g)			39.5	
検査等級 (等)			2上	-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成22年、27年（収穫年度）を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。

3) 春まき小麦 やや良

5月20日現在：やや良

事由：播種は平年より3日早い4月17日に行い、出芽期も平年より3日早かった。播種期および出芽期が早かったため生育は進み、草丈および茎数とも平年をやや上回った。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

6月20日現在：平年並

事由：6月上旬の低温の影響を受け出穂期は2日遅かった。草丈は平年をやや上回ったが、茎数は平年をやや下回った。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

7月20日現在：やや良

事由：6月下旬の降雨により十分な土壌水分が確保されたことから有効茎歩合が高まり、穂数は平年を上回った。稈長も平年を上回り、穂長は平年並であった。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

表4 7月20日の春まき小麦の生育

品 種 名		春よ恋		
項 目	年次	本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	4.17	4.20	△ 3
出芽期	(月.日)	5.01	5.04	△ 3
出穂期	(月.日)	6.20	6.18	2
成熟期	(月.日)		7.30	
草丈 (cm)	5月20日	22.8	18.8	4.0
	6月20日	84.9	78.5	6.4
茎数 (本/m ²)	5月20日	685	604	81
	6月20日	707	752	▲ 45
成 熟 期	稈長 (cm)	102	92	10
	穂長 (cm)	8.4	8.7	▲ 0.3
	穂数 (本/m ²)	578	506	72
子実重	(kg/10a)		520	
同上	平年比 (%)		100	
リットル重	(g)		799	
千粒重	(g)		41.0	
検査等級	(等)		2上	-

注1) 平年値は、前7か年中、平成22、24年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より“早”、▲は平年より“減”を示す。

4) 大豆 やや不良

5月20日現在

事由：播種は、平年より3日早い5月18日に行った。

6月20日現在：平年並

事由：播種後の5月下旬は降水量がやや多く、やや高温で推移した。出芽期は平年より3日早かった。出芽後の6月上中旬の気温がやや低温で推移したため、主茎節数はやや少ないが、主茎長は平年並である。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

7月20日現在：やや不良

事由：6月はやや低温で推移したが、7月上中旬は高温で推移した。開花期は平年並であった。主茎長、主茎節数ならびに分枝数は平年を下回っている。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

表5 7月20日の大豆の生育

品 種 名		ユキホマレ		
項 目	年次	本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	5.18	5.21	△ 3
出芽期	(月.日)	6.01	6.04	△ 3
開花期	(月.日)	7.13	7.13	0
成熟期	(月.日)		9.23	
主茎長 (cm)	6月20日	11.3	11.8	▲ 0.5
	7月20日	54.6	61.6	▲ 7.0
	8月20日		68.5	
	9月20日		69.2	
	成熟期		69.9	
主茎 節数 (節)	6月20日	3.5	4.1	▲ 0.6
	7月20日	9.4	10.3	▲ 0.9
	8月20日		10.5	
	9月20日		10.7	
	成熟期		10.7	
分枝数 (本/株)	7月20日	6.4	7.2	▲ 0.8
	8月20日		7.5	
	9月20日		6.4	
	成熟期		6.2	
着莢数 (個/株)	8月20日		94	
	9月20日		78	
	成熟期		78	
子実重	(kg/10a)		428	
同上	平年比 (%)		100	
百粒重	(g)		36.0	
屑粒率	(%)		3.6	
検査等級	(等)		2下	-

注1) 平年値は、前7か年中、平成22年、26年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。

5) 小豆 やや不良

6月20日現在：平年並

事由：播種は平年より2日遅い5月25日であり、出芽期も平年より2日遅かった。しかし、5月下旬～6月上旬の適度な降雨により出芽は揃っており、主茎長および本葉数とも平年をわずかに下回る程度であった。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

7月20日現在：やや不良

事由：6月下旬の低温で生育が緩慢となり、主茎長は平年を下回った。本葉数はやや少なく、分枝数は平年並であった。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

表6 7月20日の小豆の生育

品 種 名		エリモシヨウズ		
項 目 / 年 次		本年	平年	比較
播種期 (月.日)		5.25	5.23	2
出芽期 (月.日)		6.11	6.09	2
開花期 (月.日)			7.23	
成熟期 (月.日)			9.6	
主茎長 (cm)	6月20日	3.6	4.5	▲ 0.9
	7月20日	26.4	33.7	▲ 7.3
	8月20日		65.7	
	成熟期		68.0	
本葉数 (枚)	6月20日	0.8	1.4	▲ 0.6
	7月20日	8.5	9.4	▲ 0.9
	8月20日		13.1	
主茎節数 (節)	成熟期		15.1	
分枝数 (本/株)	7月20日	5.4	5.8	▲ 0.4
	8月20日		5.9	
	成熟期		5.7	
着莢数 (個/株)	8月20日		52	
	成熟期		58	
子実重 (kg/10a)			330	
同上平年比 (%)			100	
百粒重 (g)			12.7	
屑粒率 (%)			3.7	
検査等級 (等)			3中	-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成22、27年を除く5か年の平均値。
 2) ▲は平年より減を示す。

6) ばれいしょ やや不良

6月20日現在：やや不良

事由：萌芽期は平年より1日早かったが、その後6月上旬が低温で推移したため生育が遅れ、また6月中旬の降水量が少なく土壌が乾燥したことから茎長は平年をやや下回っている。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

7月20日現在：やや不良

事由：茎長は平年並であるが、6月下旬の低温・寡照によりやや徒長し、7月10日のまとまった降雨により中程度の倒伏が発生した。上いも収量は平年並であるが、でん粉価は平年を下回っている。また、7月上旬の高温により軟腐病が散見される。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

表7 7月20日のばれいしょの生育

品 種 名		男爵薯		
項 目 \ 年次		本 年	平 年	比 較
植付期 (月.日)		5.10	5.08	2
萌芽期 (月.日)		5.28	5.29	△ 1
開花始 (月.日)		6.25	6.23	2
枯凋期 (月.日)			8.30	
茎長 (cm)	6月20日	29.0	35.1	▲ 6.1
	7月20日	49.1	51.0	▲ 1.9
上いも数 (個/株)	7月20日	10.3	9.5	0.8
	8月20日		10.8	
上いもの平均重 (g)	7月20日	68	78	▲ 10
	8月20日		103	
上いも収量 (kg/10a)	7月20日	3094	3221	▲ 127
	8月20日		4895	
でん粉価 (%)	7月20日	12.9	14.5	▲ 1.6
	8月20日		15.2	
収 穫 期	上いも数 (個/株)		10.2	
	上いもの平均重 (g)		104	
	上いも収量 (kg/10a)		4694	
	同上平年比 (%)		100	
	中以上いも収量 (kg/10a)		4325	
	同上平年比 (%)		100	
	規格内いも収量 (kg/10a)		4131	
	同上平年比 (%)		100	
でん粉価 (%)			14.9	

注1) 平年値は、前7か年中、平成22、23年を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。